

「北海道“絆”menづくりプロジェクト」

趣意書

平成23年度の北海道による道民意識調査において、「日々犯罪被害に遭う不安を感じている」と回答した道民が55.4%以上を占め、北海道の犯罪件数は平成14年をピークに減少傾向にあるにも関わらず、道民の不安は改善されていないのが現状であります。

かつての地域社会では、住民同士の連帯意識が強く、子どもたちに対して、我が子同様にモラルやマナーを教えるということが自然に行われ、犯罪や少年非行を抑止する社会環境として機能していましたが、近年都市化や核家族化などによって地域の連帯感や家族の絆が弱まり、そうした機能が低下しているものと思います、

北海道では、平成20年5月から「安全・安心どさんこ運動」を展開、「あいさつ・みまもり・たすけあい運動」を推進しており、また各自治体でも「犯罪のない安全で安心なまちづくり等に関する条例」が制定され、

事業者の役割として

- 「事業活動における安全を確保すること。」
- 「地域における安全で安心なまちづくりの支援に努めること。」

市民の役割として

- 「安全で安心なまちづくりの理解を深めること。」
- 「自らの安全確保に努めること。」
- 「地域で協力して、安全で安心なまちづくりを行うように努めること。」

とされています。

また、交通死亡事故も全国ワースト1を回避したものの、悲惨な交通事故は、常に身近で起こっています。

これらの現状から、企業や団体による地域貢献の一環として、北海道で行っている「安全・安心どさんこ運動」と連携し、まずは「絆ステッカー」を制作、普及することで従業員・家族・地域の連帯感を生み、人や地域や社会が家族のような絆で結ばれ、犯罪が減り、悲惨な交通事故がなくなってくれるものと思います。

安全で安心して暮らせる社会の実現を願い、企業・団体及び個人が集い、絆づくりに係る事業・活動を行う為「北海道“絆”menプロジェクト」を設立するものであります。

松井敦利